

# 浜松歯科衛生士専門学校

学校だより

ウイズコロナで感染予防をしながらの学校生活も秋に入りました。1年生は入学後、初めての学外授業で、野鳥の観察とウミガメの放流を体験してきました。小さな生き物たちの命に触れ、心が温かくなったようです。2年生は戴帽式という、大きな行事を迎えるました。1年半の学びを基に臨床実習に向かいます。3年生は、臨床実習が終わり3月の国家試験へ目標がひとつとなりました。春にはコロナも学生たちも、良い結果がいただけるよう頑張っていきます。



## 戴帽式

2年 速水 明日香

戴帽式で才川校長先生からキャップを戴いた際、今まで学んできた授業や、マネキンや相互実習で練習してきた時間を振り返り、身の引き締まる思いになりました。

1年生の臨床実習の時に一人の患者様から声を掛けられたことが思い出されます。患者様から見たら、実習生もスタッフの1人として見られますので、医療人としての応対も求められることを忘れないようにしたいです。

11月からの臨床実習では、コロナ禍の大変な状況下で実習生の受け入れを引き受けくださいった歯科医院の皆様に感謝をするとともに、医療人として必要な技術や知識、対応が身に付けられるよう、1つ1つ着実に学び、覚えていきたいと思います。

私の祖母は食べることが大好きで、自分の歯で美味しく食べられることが自慢の、笑顔が素敵なおばあちゃんです。祖母のように長生きして元気に過ごせるように、お口の健康寿命を支えるお手伝いができるよう、プロフェッショナルな働き方をしっかり学んできたいです。



## 口腔機能低下症診断機器の相互実習を体験して

3年 斎藤 智里

授業で口腔機能低下症やその検査方法について学びましたが、自分自身が検査を体験したのは初めてでした。歯科医師の先生方がわかりやすくご指導くださり、器械の使用方法や結果から読み取れることなど、理解を深めることができました。低下症を放置しておくと摂食嚥下障害に移行するといわれています。今後歯科衛生士として歯科医院で検査を任されたときに、正しく実施できることや、患者さんにわかりやすい説明が行えるようにしておくことの重要性を実感しました。



## 口腔機能低下症の実習で学んだこと

3年 鈴木 祐衣

先日、口腔機能低下症の実習で7項目の検査をおこないました。私は特に舌圧検査で舌に大きな力をかけるため、短時間でしたが疲労感を感じました。これを高齢者の方に行っていただくと考えるととても大変だろうと思いました。マニキンを使っての嚥下内視鏡検査では、校長先生が解剖学的な説明を丁寧にしてください、嚥下の仕組みについて改めてじっくりと観察することができたので、とても勉強になりました。最後に行った口腔機能訓練は日常生活で簡単に取り入れるものだったので、患者さんの食事の楽しみやQOL向上に向けて、歯科衛生士として指導できるようになりたいと思いました。



## 野鳥の観察とウミガメの放流

1年 大葉 楓子

私達は、一般教養の授業で野鳥の観察とウミガメの放流のため中田島まで行きました。最初に行った野鳥の観察では、初めて触る双眼鏡を首にぶら下げて観察をしました。今回あまり野鳥が現れず、私は鶴しか観察することができませんでしたが、双眼鏡を覗いて野鳥を観察するのは初めてでとても楽しく貴重な体験が出来ました。

次に行ったウミガメの放流は、前からとても楽しみにしていました。ウミガメの赤ちゃんを触る機会は、普通に生活しているだけでは、なかなか体験できることではないので、とても緊張しました。いざウミガメの赤ちゃんに触れてみると、ずっと手と足をパタパタさせて、たまにウミガメの赤ちゃんの手が、私の手に当たった時すごい力で動いて驚きました。放流する時、その小さな体で、ゆっくりだけれど海の方に一生懸命向かっていく姿を見て、私も少しずつでいいから、歯科衛生士になるために頑張っていこうと思いました。